

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394700039		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム いわくらの泉 2階(Bユニット)		
所在地	岩倉市八剱町井ノ下20番地		
自己評価作成日	令和5年7月1日	評価結果市町村受理日	令和5年9月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2394700039-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和5年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いわくらの泉は「絆」をテーマに笑顔と心を大切にして、日々関りを持っています。病気になっても社会との交流、地域との交流の場となるように目指しています。コロナ禍でも可能な限りご家族様との面会是对面を継続し、必要に応じて制限を図ってきました。日々の様子は、できることを可能な限り家事洗濯掃除などを行い、毎朝の朝礼、毎食時前の嚥下体操、脳トレプリントや季節ごとの壁面づくりなど入居者様と一緒に彩を加えています。施設に自販機を設置し地域の皆様の交流の場となるように防犯対策も兼ねて努めています。避難訓練も入居者様と行い、災害時や防犯の避難訓練も取組みました。入居者様、ご家族様や地域の方々、職員に愛される施設を目指して日々奮闘しています。□ □ □

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅や田畑が見渡せる閑静な住宅地の一角に、今年で12年を迎えた二階建てのモダンな外観の事業所がある。入居者との「絆」を大切に、地域に溶け込み地域に愛される事業所を目指して、職員とのコミュニケーションを重ねながら更なる努力をしている。「いわくらの泉」の理念を基に入居者との心の繋がりを大事にした事業所目標と、職員相互の協力と信頼性に基づいたチームワークを目指した職員行動指針を作成し、毎月の職員会議で理念に基づいたサービスが提供されているか、家族との関係作りや繋がりを意識しながら日々のケアに取り組んでいるかなどを振り返りながら共有と実践に繋げている。委員会を通して事業所独自の身体拘束に関する基準やケアの標準の実施方法の勉強会などを積極的にを行い、ケアの質の向上や職員の意識、力量の向上に努めている。コロナウイルス感染症が緩和されつつも、対策を取りながら今まで制限されてきた、家族との面会や外食、外泊、法事、地域での盆踊りの参加、ボランティア活動など今まで培ってきた馴染みの人や場所の関係を徐々に再開しながら絆が途切れないような支援に心がけている。また、引き続き管理者からコロナウイルス感染症に関する確実性や信頼度の高い情報を家族に随時発信し安心を届けて信頼性を得ている。普段の生活の中で職員の都合に合わせず、入居者の個性や立場、自尊心を大切にしつつ、出来る事を永くやっていける様なケアに心がけている。入居者は、季節感や心地よい風を感じながら、手作りの食事やおやつを頂いたりして家庭的な生活を楽しんでいる。広々としたリビングでは職員と穏やかに会話をしたり、ソファーにもたれのんびりテレビを楽しみながら穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

己自部外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目の届く場所に理念を掲げ理念を意識して業務に取り組んでいます。毎月発行のご家族宛の「絆だより」でも発信しています。	事業所理念、「絆」を基本として、入居者との心の繋がりを大事にした事業所目標と、職員相互の協力と信頼性に基づいた職員行動指針を作成し玄関や各ユニットに掲示している。毎月の職員会議で理念に基づいたサービスが提供されているか、家族との関係作りや繋がりを意識しながら日々のケアに取り組んでいるかなどを確認し、職員の共通認識の下、日々のケアを振り返りながら共有と実践につなげている。パンフレットに理念を掲載し、毎月の「絆だより」に事業所や職員の想いを発信している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もありましたが、4月から地域交流の機会を少しずつ増やしています。(フラダンス・6月～新規ボラ) 時より畑で採れた野菜を頂く事もあります。	町内会に加入し、区長や回覧板から情報を得ている。状況により入居者の参加を自粛している行事もあるが、事業所内の草取りや清掃活動の継続や4年ぶりに地域の盆踊りに参加するなど徐々に交流の機会を多くしている。また、ボランティアの受け入れの再開や小学生の校外学習では子どもたちと触れ合う貴重な交流をしている。今後、さくら祭りの参加や地域の商店、飲食店など入居者と共に以前利用していた支援の復活を目指している。自販機を設置して近所の方と触れ合う場としたり駐車場の一部を貸し出すなど繋がりを大切にしたい暮らしに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントも少しずつ参加を増やしています 小学校訪問・夏祭りの参加など		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での実施⇒4月～施設で開催へ (2か月に1回実施)	家族代表、区長、民生委員、包括支援センターや市職員に開催案内を出している。会議は状況に応じ書面や対面で二部制にするなど工夫をしながら年6回運営推進会議を開催している。運営状況や活動内容、ヒヤリハット、事故報告、更に入居者の生活の様子は各ユニットごと詳細に報告をしている。特に新型コロナの情報や面会の対応については毎回報告している。また、書面開催の場合は返信用封筒を同封して意見や提案等を聴取し次回議事録に回答を記載した丁寧で明確な議事録は家族も心待ちにしている。参加者からの意見や提案等は、必要に応じ会議などで協議しサービスの向上に活かしている。会議録は、参加者や家族全員に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主にメールにて連絡しています。また、必要に応じて連絡し、指導や助言を得て協力体制を築くようにしています。	市の担当者は運営推進会議に参加し情報交換をしている。状況に応じてメール等で連絡を取り合い、情報やアドバイスを得ている。必要に応じて、申請の代行業務などで出向き報告や相談、サービスの内容などを伝えている。「のんびりネット」に登録し、多職種間とのスムーズな連携体制により質の高い医療や介護サービスの提供に繋がっている。市主催の「郷土、ゆめ、ふれあい祭り」では、入居者の作品を毎年展示し、地域に向けてPRしている。岩倉市内の事業所交流会や連絡協議会に参加し意見交換を行っている。相談員の訪問に合わせ市の担当者が来所し良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯目的で施錠しています。希望されれば行きたい時には解除します。日々のケアにおいては身体拘束しないよう努めています。今年度から委員会を開催している。定期的な勉強会実施。	身体拘束適性化委員会を開催し職員の言葉遣いに注視し振り返りの場としている。ユニット内で拘束事案について事例検討をもとに勉強会を実施している。運営推進会議で情報を伝え周知している。日々のケアに於いてグレーゾーンを当たり前にしないよう職員の意識を高め、人としての尊厳を大切にして身体拘束やスピーチロックをしないケアに取り組み、開放的な生活空間の提供や束縛感のない生活が送れるよう配慮している。必要に応じその都度委員会を立ち上げ協議し、取組む場合は家族の承諾を得ている。ユニット間の行き来や合同の行事は今後増やしていく方向にある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に至らないように日々取り組んでいます。今年度から委員会を開催しています。定期的な勉強会を実施。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会をなかなか持てず、全職員が理解しているとは言い難い。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時、入居前に十分な説明を行い、理解・納得を図っています。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要に応じてアンケート調査をし、面会時等で意見や要望を聞き運営に反映させています。その上で運営推進会議などで外部に開示しています。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞いている。家族からは面会時や家族ノートを利用したり必要に応じアンケート調査を行うなどして意見や要望を聴取している。聞き取った意見は職員に開示し会議等で検討して職員間で情報を共有し、ケアや業務改善に役立てている。家族には入居者の暮らしの様子の写真や担当職員からの日常の様子とコメントを載せた「絆だより」を毎月発刊し、家族に安心感を届けている。固定電話以外に携帯電話を各ユニットに置き、電話やショートメールなども利用し連絡を密にしている。コロナウイルス感染症についても必要に応じて情報の提供を継続して発信している。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務・申し送り・ミーティング等で、意見や提案を聞き反映させています。	日常の業務の中や引継ぎ時また、毎月のユニット会議などで職員からの提案や要望を聞き、協議をして運営に反映させている。管理者はユニット会議や各委員会に参加し、内容を把握して職員が向上心を持って働けるよう努めている。人事考課制度を導入し、目標に対する自己評価や自らの力量を理解し、スキルアップしながら質の高いケアに繋げるよう努めている。管理者とは年2回の面談の他に随時話し合う機会があり、常に職員の提案や意見、悩みなどを聞き、業務や職場環境に反映させている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	報告・連絡・相談をもとに把握し、各自が向上心をもって働けるように努めています。人事考課実施時に面談を行っています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人から発信されている資料をもとに、ミーティングなどで研修を実施しています。外部研修も徐々に開催されています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域会議で外部との交流を図っています。法人企画の研修で他施設と交流機会が持てるようになってきています。		

己自部外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族の困っている事・不安や要望などを聴取し、安心した生活が送れるよう関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事・不安な事・要望などを聴取し、相談できる関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の様子を観察・記録し、必要に応じて必要なサービスを全職員で情報共有しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の今持っている力を大切にして、活かせる事が出来るよう日々の生活を送って頂いています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月の便り、報告がある時には電話等で日頃のご様子やケアの内容を報告しています。必要に応じて連絡を取り合い、個々に合ったケア提供ができるようにしています。その内容を記録や申し送りノートで情報共有できるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限が緩和されてきたので、ご本人の馴染みの方と関係が途切れないように努めています。	入居時にこれまでの生活歴を入居者や家族から聴き、入居者が大切にしていた人や場所、物事が続けられるよう努めている。家族の定期的な面会や家族との外食、法事に出掛けたり外泊をするなど今まで制限されてきた家族とのふれあいが緩和され、感染対策を取りながらではあるが、馴染みの人や場所の関係が途切れないような支援をしている。また、日常生活の中での家事仕事や畑仕事、趣味の継続など、今まで培ってきた経験を日常に生かすよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が助け合いながら個々に合った役割を分担し関わり合っています。席の配置など配慮。関係が悪化しそうな時や新規入居者様と関わる時は ご本人の話を傾聴し落ち着けるような援助を心掛けています。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談及び援助を図っております。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で傾聴し表情や仕草などからもくみ取りながら思いを伺っています。困難な場合にはご家族様と相談しながら思いや意向に添えるように検討しています。	日常の入居者との、さりげない会話や表情などをケアの中から感じ取ったり、入居者の気持ちに寄り添い、回想法などを取り入れて会話を促したり、のんびりとした時間の中で思いや希望を聞くようにしている。感じ取ったことは申し送りノートや介護記録に記載し、職員会議で検討して共有しケアに繋げている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討をしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から生活歴などを聞き把握につとめています。日頃の会話などで得られる情報を共有しご本人に合った活動や関わりを提供できるようにしています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なカンファレンスや日々の申し送り・記録で情報共有し現状の把握に努めています。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向を最優先にして現状に即した介護計画を作成しています。ご家族・関係者と話し合って必要に応じて随時見直しを図っています。	日常の様子や身体状況の変化の記録を基に居室担当職員が3か月ごとにモニタリングを行っている。モニタリングの結果について職員から意見を聴取し内容を検討している。職員は得られた課題や情報を共有しながら実践し、計画作成者が6か月ごとに入居者や家族の意見も反映させながら介護計画の見直しを行っている。必要に応じて医師の往診時に家族や居室担当者なども交えて、問題や課題について話し合い、現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録、申し送りで気づきや介護で工夫しての効果などを情報共有し 必要に応じて介護計画の見直しに活かしています。毎月のミーティングで話し合いがされています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族と話し合い相談し、可能な限り柔軟な支援やサービスが出来るように取り組んでいます。	

己 自	部 外	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加したり、病院受診・往診などを利用し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回かかりつけ医の往診あって、緊急時も連携して対処しています。ご本人様・ご家族様の心配・不安があれば医師に相談し、適切な医療が受けられるよう支援しています。	入居時に本人や家族にかかりつけ医の継続か提携医かの希望を聞いて選択している。月2回提携医による内科の往診が受けられる。往診時には、入居者個々の情報や気づきの記録をもとに診察を行い医師と情報を共有して安心できる環境を提供している。専門医の受診は家族の協力を得ている。受診結果は家族から口頭で聞いたり診療情報提供書で共有し介護記録に反映させている。身体状況に変化があった時や緊急時は、24時間体制で提携医や訪問看護師、協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時までには個々の情報・気づきを記録し相談しています。また、緊急時などに連絡・相談をしています。訪問看護も週1回あります。		
32		○入院退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院側に施設サマリーを提供し、電話連絡などで情報交換や相談に努めています。退院前には、必ず退院再アセスメントを実施して、病院と情報共有した上で職員に開示している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、ご家族様や主治医と話し合いを行い、ユニット全体で相談し、施設においてできる事を十分に説明した上で、支援に取り組んでいます。	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は、その都度入居者や家族に希望を確認し医師と話し合いながら、事業所でできることを十分に説明し、方針をユニット全体で共有して、医師や家族の協力を得ながら支援する態勢を整えている。入居者にとって最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。看取りの経験もあり、家族の希望により立ち会うこともできる。職員は法人が行う看取り研修を受け、看取り後には個人面談をしながらメンタルケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが実際、対応困難な職員もいるのが現状で電話連絡で指示・フォローをする体制になっています。定期的に訓練・勉強会を行い、実践力を身につけるよう努めます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は不十分だが、火災や地震・水害・防犯など昼夜を問わず訓練しています。	年2回の避難訓練の内1回は消防署員の立会いの下、地震、火災、水害の他に様々な災害を想定した避難訓練を実施し、避難誘導や避難経路などの助言や指導を受けている。夜間専属の職員の参加を得て夜間帯の職員体制で実施している。緊急連絡網を利用した通報訓練も実施している。訓練時の問題点は職員で話し合い改善に努めている。防災全般に関わる備蓄品リストを作成し、水や食料など職員分を含め1週間分が用意されている。AEDを玄関に設置し緊急時に備えている。運営推進会議で訓練の報告はしているが地域との協力関係までには至っていない。	最近では想定外の災害が多く発生している現状もあり、事業所と地域が協力して同じ地域に住む住民を守るために事業所ができる事を発信したり、近隣の方との協力関係を深めるための方法や仕組みなどを運営推進会議や職員会議等で話し合い、緊急時に備えていくことを望みたい。また、AEDの設置が分かるようステッカーを貼る場所を工夫したり地域に向けて発信されることを期待したい。

己 自部外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格・意思を尊重しケアするように努めています。職員本位にならないように適切な対応・言葉かけを意識しケアに努めています。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、家族の意見を聞きながら一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した対応に心掛け、日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使い、声のトーンなどを意識したケアに努めている。氏名などに配慮が必要な場合はイニシャルで表現したり、同性介助にも配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思を尊重し、自己決定出来るように働きかけています。また、自己決定が困難な入居者様にも、出来る限りご本人様本位で検討しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先、職員本位のペースにならないようにスタッフ同士で協力しあって、業務の見直しなど行って 出来る限り入居者様のペースや希望にそって支援できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様に着たい服を選んで頂いています。また、選ぶことが困難な入居者様には、季節に応じた服を職員が選び支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のできる力を把握し、コミュニケーションを取りながら、一緒に調理、盛り付け、配膳、下膳、食器拭きを付き添いながら実施しています。	食材業者を利用し、栄養士の献立表に沿って毎食手作りしている。調理や盛り付け配膳、下膳、食器拭きなどその人の得意分野を生かして、職員と一緒にやっている。近所の畑の方から季節の野菜をお裾分け頂いたり畑でできた野菜は食卓に彩を添えている。敬老の日や周年日の「祝い善」には近くの老舗料亭のお弁当を取って食事を楽しんでいる。また、希望を聞いて鬼まんじゅう作りや「てるてるアイスクリーム」などの手作りおやつも楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外でもポカリスエットを提供。コーヒーなど数種類準備して9時、おやつ、希望時に飲める。尿の性状などから水分量をアップしている方や水分をご自身から控えている方には少しでも飲めるようにゼリー提供など工夫して必要水分量以上確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアをしています。食事前にうがい実施。ご自身で出来ない場合や磨き残しがあるか確認して支援しています。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用は基本、夜間のみとし 日中はリハビリパンツまたは布パンツを使用し 個々に合ったパッドを使用して頂いています。状況によって尿測を実施してい評価のもと選定する事もあります。	個々の介護記録から排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。入居者の状態に応じて尿量を測定しリハビリパンツから布パンツに替えたり、リハビリパンツのサイズを検討するなど個々に合った布パンツやリハビリパンツ、パッドを利用している。日中は自力での排泄を目指している。自分の使い慣れたトイレで安心して排泄ができるような環境や夜間のみポータブルを利用して安心して過ごせる配慮をしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘日数を申し送りして把握し、指示に応じて下剤服用。起床時に牛乳や水分提供、体を動かして頂き予防の取り組みをしている。コルセットの圧迫を緩め腹部マッサージを実施するなど個別に応じて取り組みあり。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望されるタイミングで入浴は出来ないが、午後に入浴で週2回の入浴を行っています。入浴中はラジオを流したり湯温や空調に配慮し冬場をオイルヒーターで温めるなどしています。	入浴は週2～3回以上を目安に個人の体調を考慮して一人ひとりのタイミングやラジオを流すなど入浴が楽しめる工夫をしながら支援をしている。肌に優しいシャンプーやボディソープを利用して個々にあった肌ケアをしている。季節を感じるゆず湯や菖蒲湯も楽しんでいる。冬季は脱衣場にオイルヒーターを設置してヒートショックに配慮している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠できるように 日中は、基本フロアで過ごして頂いています。個々の入居者様の体力などみて日中の休息も取り入れています。安心して眠れるように支援しています。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬説明書をファイルしフロアに置いて全職員がいつでも閲覧できるようにしています。また、ここに合わせた服薬の支援と症状の変化など確認に努めています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできる力を把握し、張り合いや喜びを持ち 日々過ごせるように支援しています。地域から農作業をしていた方が多いので畑で夏野菜を育てるなどしています。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族からの希望で外出機会を行っている方がいますが、コロナの影響によって外出機会は少しくづつ増やしている状態。ご本人様の希望に沿えるよう支援していきます。	日常的に散歩に出かけられる環境にあり、お天気の良い日には庭に出て畑の草取りや日光浴をしたり、ベランダで干し物をしたりして外気に触れ、季節の移ろいを感じ取れるような機会を大事にしている。まだコロナの影響は残っているものの地域の盆踊りに参加し、風情を思い起こし楽しむ機会となった。今後は入居者一人ひとりの希望に沿った外出支援や季節の花見、空港や成田山にドライブなど遠出の外出や喫茶店、外食などの支援ができるよう機会を計らうようにしている。

己 自	部 外	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは原則立替金としています。金銭トラブルを避けるために居室内で金銭などを保管する事はご遠慮させて頂いています。ご希望があれば能力やリスクを理解頂けるよう支援できます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様・ご家族様の希望があれば、電話や手紙でのやり取りが出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と一緒に、季節に合った飾りや塗り絵などを作成して目に付くところに飾り付けています。不快にならないように環境調整して、居心地よく過ごせるように工夫しています。	共用空間は、食堂と居間がワンフロアで明るく風通しがよく開放感がある。壁面には華美にならない程度の飾りつけや手作りカレンダー、四季を感じられる貼り絵の作品や日常の生活の写真を掲示して会話の一助としたり回想法に役立てたりしている。余暇の時間には新聞を読んだりテレビで野球観戦をして楽しんだり、ソファで寛いだりして穏やかに過ごしている。居間には除菌、消臭できる空気清浄機を設置して感染症予防のための環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・座席の配置を状況に応じて工夫し、入居者様同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様・ご家族様と相談し、住み慣れたご自宅で使い慣れた物を持って来て頂いています。また、ご本人様の状況に合わせた居室空間づくりもしている。	居室には自宅で使い慣れた筆筒や椅子やテレビを持ち込み、個々の状態に合わせたベッドを利用して、安心できる環境作りをしている。また愛着のある手作り作品や家族の写真などを飾って居心地よく過ごせる配慮をしている。余暇の時間には居室の机で書き物や小説を読んで過ごしたり、掛け時計を掛けて生活のリズムを整えるなど、入居者一人ひとりが自分のペースを大切に生活ができるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできる事・わかる事を把握し、安全で出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫し支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394700039		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム いわくらの泉 1階(Aユニット)		
所在地	岩倉市八飢町井ノ下20番地		
自己評価作成日	令和5年7月1日	評価結果市町村受理日	令和5年9月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2394700039-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和5年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いわくらの泉は「絆」をテーマに笑顔と心を大切にして、日々関わりを持っています。病気になっても社会との交流、地域との交流の場となるように目指しています。コロナ禍でも可能な限りご家族様との面会是对面を継続し、必要に応じて制限を図ってきました。日々の様子は、できることを可能な限り家事洗濯掃除などを行い、毎朝の朝礼、毎食時前の嚥下体操、脳トレプリントや季節ごとの壁面づくりなど入居者様と一緒に彩を加えています。施設に自販機を設置し地域の皆様の交流の場となるように防犯対策も兼ねて努めています。避難訓練も入居者様と行い、災害時や防犯の避難訓練も取組みました。入居者様、ご家族様や地域の方々、職員に愛される施設を目指して日々奮闘しています。□ □ □
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅や田畑が見渡せる閑静な住宅地の一角に、今年で12年を迎えた二階建てのモダンな外観の事業所がある。入居者との「絆」を大切に、地域に溶け込み地域に愛される事業所を目指して、職員とのコミュニケーションを重ねながら更なる努力をしている。「いわくらの泉」の理念を基に入居者との心の繋がりを大事にした事業所目標と、職員相互の協力と信頼性に基づいたチームワークを目指した職員行動指針を作成し、毎月の職員会議で理念に基づいたサービスが提供されているか、家族との関係作りや繋がりを意識しながら日々のケアに取り組んでいるかなどを振り返りながら共有と実践に繋げている。委員会を通して事業所独自の身体拘束に関する基準やケアの標準の実施方法の勉強会などを積極的にに行い、ケアの質の向上や職員の意識、力量の向上に努めている。コロナウイルス感染症が緩和されつつも、対策を取りながら今まで制限されてきた、家族との面会や外食、外泊、法事、地域での盆踊りの参加、ボランティア活動など今まで培ってきた馴染みの人や場所の関係を徐々に再開しながら絆が途切れないような支援に心がけている。また、引き続き管理者からコロナウイルス感染症に関する確実性や信頼度の高い情報を家族に随時発信し安心を届けて信頼性を得ている。普段の生活の中で職員の都合に合わせず、入居者の個性や立場、自尊心を大切にしつつ、出来る事を永くやっていける様なケアに心がけている。入居者は、季節感や心地よい風を感じながら、手作りの食事やおやつを頂いたりして家庭的な生活を楽しんでいる。広々としたリビングでは職員と穏やかに会話をしたり、ソファーにもたれのんびりテレビを楽しみながら穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				4. ほとんどできていない
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を意識して、業務に取り組んでいます。施設内に提示とご家族様のたよりに提示しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響から少なくなりましたが、今年より参加していきます。時より畑の方々より採れた野菜を頂きました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会での場で発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の2月より、対面での会議を再開しました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主にメールにて連絡しています。また、必要に応じて連絡し、指導・助言を得、協力体制を築くようにしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯目的の為施錠しています。外出時には解除します。日々のケアにおいては身体拘束はしないよう努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にならないように日々取り組んでいます。委員会も立ち上げ、毎月委員と検討しています。社内研修も実施しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員が理解しているとはいえませんが、必要に応じて権利擁護を検討します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時・入居前に十分な説明を行い、理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要に応じてアンケート調査し、面会時等で意見・要望を聞き、運営に反映させています。その上で、運営推進会議等で外部に開示しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務・申し送り・ミーティング等で、意見や提案を聞き、反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	報告・連絡・相談をもとに把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、動画研修をプログラムされています。また、毎月テーマごとに資料配布し、実施。社内全体でも行い、他職員との交流の場となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域会議等で外部との交流を図っています。職員も、上記のとおり、社内研修にて勉強会に参加し、交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族様の困っていること・不安や要望等に傾聴し、安心した生活が送れるよう関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること・不安なこと・要望等に傾聴し、相談できる関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の様子を観察・記録し、必要に応じて必要なサービスを全職員で情報共有し努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の今持っている力を大切に、活かせることが出来るよう日々の生活を送って頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月の便り等で日頃の様子・ケアの内容を報告しています。また、必要に応じて連絡を取り合い、個々にあったケアを提供できるようにしています。職員間では、ご家族様連絡ノートを活用して、情報の共有を図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人は、面会等で関係が途切れないよう努めています。場所は、ご家族様の協力を得て、途切れないよう努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、助け合いながら個々の役割を分担し関わり合っています。関係の悪化・新しい入居者様と関わる際、ご本人様の話を傾聴し、支え合えるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談及び援助を図っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で傾聴し、把握に努めています。表情や仕草からもくみ取り、困難な場合は、ご家族様と相談しながら応えられるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様から生活歴などを聞き、把握に努めています。日頃の会話等から得られる事もあるので、話しやすい関係を保ち生活習慣を保てるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態は、定期的なカンファレンスや日々の申し送り・記録等で情報共有し、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を最優先に現状に即した介護計画を作成しています。また、ご家族様・必要な関係者と話し合い、必要に応じて随時見直しを図っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録や日々の申し送り等で気づきや工夫を情報共有し、必要に応じて介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様と話し合い相談し、可能な限り柔軟な支援やサービスが出来るように取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや岩倉市の介護相談員等活用し、かつ地域のイベントに参加したり、病院受診・往診等を利用し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回かかりつけ医の往診を行い、緊急時の対応も連携して対応しています。ご本人様・ご家族様の心配・不安な点を医師に相談し、適切な医療が受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時までには個々の情報・気づきを記録し、相談しています。また、緊急時などに連絡をし都度相談しています。また、訪問看護も週1回あります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院側に施設サマリーを提供し、電話連絡等で情報交換や相談に努めています。退院前には必要に応じて退院再アセスメントも実施して病院と情報共有した上で職員に開示している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、ご家族様や主治医と話し合いを行い、ユニット全体で相談し、できることを十分に説明した上で、支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあり、何かあれば報連相も行っています。定期的に訓練・勉強会を行い、実践力を身に付けるよう努めます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は不十分だが、火災や地震・水害・等昼夜を問わず訓練しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格・意思を尊重しケアをするように努めています。職員本位にならないように適切な対応・言葉かけを意識しケアに努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思を尊重し、自己決定できるように働きかけています。また、自己決定が困難な利用者の様にも、できる限りご本人様本位で検討しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先、職員本位のペースで過ごすこともあり、個々のペースを大切に希望にそって支援しているとは、言い難いです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様に着たい服を選んで頂いてます。また、選ぶこと困難な入居者様には、季節に応じた服を職員が選び支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のできる力を把握し、コミュニケーションを取りながら、一緒に準備や食事、片付けをしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分摂取量を記録し把握して、個々の状態や力に応じた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアをしています。また、自己にて出来ない場合も支援しています。個々にて歯科受診され、口腔ケアをしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用は基本、夜間のみとし、日中は、リハビリパンツまたは、布パンツを使用し、パッドは、個々に合ったものを使用して頂き、トイレでの排泄や自立に向けて支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用して頂いたり、個々に応じて起床時に牛乳・水分を提供し、身体を動かして頂き、予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のタイミングや希望に合わせた入浴は出来ていないが、週に3回の入浴を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、基本フロアで過ごして頂いています。状況に応じて、居室で休息して頂き、安心して気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬説明書をファイルしフロアに置き全職員が閲覧し理解できるようにしています。また、個々に合わせた服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできる力を把握し、張り合いや喜びを持ち日々過ごせるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により外出支援はできなかった。ご家族様と相談し、ご本人様の希望にそえるよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、施設にて管理しています。外食・買い物・遠足等で希望があれば個々のお小遣いより支払って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様・ご家族様の希望があれば、やり取りできるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に、季節に合った飾りや絵などを作成して、居心地の良く過ごせるように工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・座席の配置を状況に応じ工夫し、利用者様同士思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしています。コロナに対応できるように配置も実施済み		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様・ご家族様と相談し、使い慣れたものを持ってきて頂いています。また、ご本人の状況に合わせた居室空間づくりもしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできること・持っている力を把握し、安全で出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫し支援しています。		